

<全体分析>

試験時間 120 分

解答形式

客観式, 記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴

読解総合: 英文和訳, 内容説明, 空所補充 (適語選択)

英作文: 自由英作文 (会話文) を含む

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

読解問題においては, 昨年度に続いて空所補充問題が出題されるとともに, 内容説明問題が出題された (解答の量は「解答欄におさまる長さ」という指示)。本年度は字数指定の要約問題は出題されていない。英作文では, 大問Ⅲが従来の英訳に加えて文中の空欄を補充することを求める問に変更されている。前後の論理がつながるように空欄を埋めることはかなり難しい。大問Ⅳは長い会話文を読み, 空欄を補充する自由英作文で, 昨年度と比べると問題文の文量は増えているが, 書くべき内容に迷うことは少なくなっている。

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	読解総合	「救世主コンプレックス」 (543words)	(1) 下線部(a)の直後の2文の内容をまとめる。 (2) 1文目の all of which is to say that...は in other words とほぼ同義。that 節中は how you help(S) matters(V) ... という構造で, how you help と that you do help とが as much as によって比較されている。which is why... の which の先行詞は how you help...you do help の内容。2文目の ask for direction は「指示を仰ぐ」の意味。3文目の others は助けを必要とする人たちのこと。even if 以下は remain in charge を修飾。 (3) 本年度の空所補充は動詞 (句) を入れる問題。1個だけダミーがあるが, 文脈に迷うようなところはなく, 比較的解答は容易である。	標準

II	読解総合	「小惑星や彗星の資源活用の可能性」 (526 words)	<p>(1) 下線部(a)の直後で述べられている内容をまとめる。第3段落第1文で端的に表現されているので、これをもとに第2段落の内容から肉付けしていくと書きやすかっただろう。字数指定はないが、解答欄の大きさから考えて70字程度でまとめるのが適切。</p> <p>(2) 従来型の下線部和訳問題。文構造把握の観点からは下線部内2文目にある to within a few degrees of ... の箇所がポイント。この within は less than とほぼ同義。to ... degrees というつながりが見抜けたらどうか。語句レベルでは、rendezvous ; trajectory で知識や文脈から推測する力の差が出るだろう。safe も文脈に即した訳出をしたい。the plane of the solar system の訳出は難しい。</p> <p>(3) 従来型の下線部和訳問題。文構造把握の観点からは下線部内1文目にある that network ... telescopes の部分が NEO ... programs を先行詞とする関係代名詞節であると見抜けたかがポイント。ここでの network は「…をネットワーク化する」という意味の動詞である。語句レベルでは、(be) funded by A ; field of view ; detect ; faint で力の差が出るか。underutilized は難しい。</p>	標準
III	英作文	「和食を味わう」	和文英訳の一部を補って、全文を英訳するというこれまでにない設問形式。第1文は、「…という話になる」の部分の表現には注意が必要。続く空欄の部分には、「外国人に和食の味がわかるのか」という考えに対する反論、具体的には「和食は外国人にもわかる」と言える理由を書く。最終文の「さらに言うならば」は難しい。空欄に入れる内容とこの最終文の整合性を考えると、ここは in fact や indeed など表現する。また、「日本人ならわかる」の部分は適切な目的語を補って英訳しなければならない。	やや難
IV	英作文	「レポートを書くにあたっての先生と生徒の会話」	対話文中の空欄を補充する自由英作文である点では、2017年度と同じであるが、英文量、補う部分ともに分量は増えている。ただし、書くべき内容は2017年度と比べると平易である。英語で書くべき部分はすべて生徒の発言であるので、適切な丁寧表現を用いることも必要である。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

読解問題では和訳以外に内容説明問題が出題されたが、字数指定の要約問題ではなく、解答欄におさまるようという目安のみが与えられており、解答箇所を迷うようなことはあまりないと思われるが、どこまでを解答に盛り込むか、そして該当箇所をどこまで正確に読むことができたかが問われる。大問Ⅰの空所補充は、本年度は動詞（句）を入れるもので、難度は比較的穏当だったが、ここまで動詞（語形変化込み）→形容詞→副詞（discourse marker）→動詞（句）ときているので、今後どのような出題になるかは未知数。いずれにせよ文脈からの推測力が問われることには変わりがない。和訳問題は特に例年と変わらないが、大問Ⅱの rendezvous や trajectory は難度が高い語彙であった。英文のテキスト自体は、2題とも基本的に従来の英文読解問題のそれと変わっておらず、難しいものの興味深い内容である。従来の精読問題の勉強法を大きく変える必要はなく、過去問に目を通すことにも十分意義はある。精読に加えて和訳以外の記述、特に「まとめ」演習を今後とも心がけたい。

英作文では大問Ⅲで従来型の英訳問題と空欄補充を組み合わせた問題が出題されている。引き続き過去問の英訳問題の練習もしつつ、2017年度、2016年度のような前後の文脈に応じて空欄を補って書く英作文演習も行う必要がある。大問Ⅳは以前の東京大学の入試で見られた対話文完成型の自由英作文だが、英文の量が圧倒的に増えた。ただし空欄の内容については大問Ⅲほど迷うことはないと思われるので、前後をよく読み、書く内容を確定したのち、平易な英語で書くことが求められる。大問Ⅲ、大問Ⅳとも、空欄に関しては、書くべき内容を外すと、英語以前の段階で点がなくなってしまうので、注意が必要である。東京大学の過去問など（本年度の大問Ⅳに近いものもある）を参考に、訓練することが必要である。積極的に添削指導を受けることが望ましい。